

《テーマ》 **薬害はなぜ なくならないか**  
— 裁判の非科学性を問う —

この秋、大阪にて下記の要領で、医薬ビジランス・シンポジウムを開催いたします。

タミフル、「分子標的薬」のイレッサ、HPV ワクチンなど、21世紀になって開発や承認がなされた新たな作用の薬剤による被害が続いています。これら「21世紀型薬害」では、医学的・科学的に因果関係が証明できても、国やメーカーはそれを頑として認めず、裁判所は被告（国やメーカー）の意見のみを取り上げ、自らは何も判断しようとしません。このような状況下、他にも薬害を引き起こしかねない薬剤は多数存在します。

シンポジウムでは、医学的・科学的根拠と、判決の根拠とのギャップについて、徹底的に討論します。ぜひ、ふるってご参加ください。（簡単なプログラムと会場への地図は裏面）

**日 時：2016年10月16日（日）11時45分～17時40分（予定）**

**会 場：此花会館（大阪市此花区、JR 大阪環状線「西九条」駅下車）**

**参加資格：不問、どなたでも（ただし先着順。定員180人）**

**参加費：2000円（資料代含む）、当日お支払ください。**

**主 催：特定非営利活動法人 医薬ビジランスセンター**

後 援：宝診療所（群馬県太田市）

〒543-8791 大阪市天王寺郵便局私書箱4号 **FAX：06-6771-6347**

★参加ご希望の方は、なるべく事前申込みを。下記にご記入のうえ、FAXで当センター宛てお送りください。当センターのHP <http://npojip.org> からネットでの申し込みもできます。

当日参加も可能ですが座席が確保できない場合がありますので、ご承知おきください。

ふりがな 氏名：	薬のチェック TIP 誌の読者ですか？ はい（会員番号 ） いいえ
住所（いずれかに○をつけてください。 自宅 ・ 勤務先） 〒	
職種	確実な連絡先 Tel： Fax： E-mail：
勤務先または所属団体など（あれば）	

## プログラム (予定)

テーマ：薬害はなぜ なくならないか－裁判の非科学性を問う

日時：2016年10月16日(日)

午前11時(受付開始)～午後5時40分(終了予定)

会場：此花会館(大阪市此花区、環状線西九条駅下車)

司会・進行：谷田憲俊、柳 元和、坂口啓子

11:00 受付開始

11:45～12:00

はじまりの挨拶

浜 六郎 (NPO 医薬ビジランスセンター代表)

12:00～14:50 タミフルについて

タミフル判決の非科学性を吟味する

柴田義朗、秦野竜子、浜 六郎ほか

タミフルの害反応2論文の解説など

休憩 15 分 間

15:00～16:00 イレッサ裁判を問う

21世紀型抗がん剤の先駆けイレッサ 判決の間違い

近澤昭雄、浜 六郎

休憩 10 分 間

16:10～17:30 HPVワクチンの害と効果について

名古屋調査の検討：HPVワクチンによる被害を示唆している？

浜 六郎

何が害を生じさせているのか

(未定)

17:30～17:40

終わりの挨拶

(以上のような進行を予定しています)

★プログラムは、7月31日現在のものです。シンポジストには、それぞれの薬害被害者・弁護士・医師などを予定しています。

《シンポジウム会場最寄駅と、会場までの案内図》

